

## ■ 2-4 南山国際高等・中学校

### (1)学校としての戦略

在籍生徒が高校だけとなりますが、少人数教育をさらに進め、理事会が約束した「最後の生徒まで入ってよかったと思える学校」となるよう、以下のような視点に立ち学校運営を行っていきます。

- 1 最後の年まで、一人ひとりの生徒を大切に、個性を伸ばしていく教育を実現します。少人数教育・英語力・学園の他の学校との連携等を柱とする教育プログラムを継続・発展させ、小さくても「南国らしく」、ありつづけます。
- 2 さまざまな場で、学校の方針やプログラムの説明、意見交換を恒常的・積極的にこなしていきます。教職員、生徒、保護者、卒業生からの要望や提案を汲み上げ、多くの方々が直接・間接に関わっていただける開かれた学校を実現していきます。
- 3 日々の学校生活を充実させ、生徒とのコミュニケーションを大切に、事故・災害・感染症や「いじめ」などに備え、安全で安心できる学校づくりに全校で取り組みます。
- 4 3年後の閉校とその後の継承業務にともなう課題および対応について、学園と連携しながら具体化してまいります。

### (2)教育・研究

キリスト教精神の涵養の下で、質の高い英語教育・ICT教育を柱とし、少人数教育・個別指導・サマースタディプログラム等を最終年度まで継続していきます。特に進路指導においては、海外生活や本校の教育により育んだ国際性を、南山大学の指定校推薦制度や外国高等学校卒業生等入学試験制度も生かし、国際人として実現できるようサポートしていきます。その一助として、高大連携事業として大学スタッフが担当する南山大学での「南大英語（上級英語）」を最終年度まで開講します。短期留学制度等の国際交流事業については、新型コロナウイルスの感染状況を慎重に見極めながら、年度ごとに実施を検討します。また校務支援システムを本格稼働させ、成績処理などの業務を合理化するとともに、閉校後の証明書等の発行システムを学園と連携して構築します。教員免許更新講習の受講支援も継続します。

### (3)施設・設備

学校生活の安全・安心を最優先しながら、教育活動に必要な改修や整備、備品購入を行っていきます。あわせてエネルギー管理委員会が中心となり、省エネの工夫・意識向上も図ります。また空き教室の有効活用を年次進行で具体化し、閉校に伴い不要となる教具・備品・資産（スクールバスを含む）等を、他設置校等で再利用できるよう調整していきます。なおスクールバスは最終年度まで、豊田線・浄水線を運行します。カフェテリアでは、2020～2021年度は冷凍食品のセルフサービスを行い、それ以降の対応については利用生徒数等を勘案しながら検討をしていきます。

### (4)社会貢献

地域の住民や近隣諸施設との交流を通し、本校や学園の社会的役割の認識を高めていきます。具体的には、新型コロナウイルスの感染状況を慎重に見極めながら、広域避難場所としての環境整備、講堂等の施設貸し出し、学校祭行事への招待・接待や、文化系部活動生徒の訪問活動等を通し、地域住民、身体障がい者入所施設「とよた光の家」、その他近隣の保育園、小中学校、福祉施設、交流館の方々と交流を図ります。また在籍生徒・保護者の減少に伴い、これまで以上に卒業生・卒業父母・南山常盤会の協力をお願いしていくこととなります。たとえば学校祭（南国祭）においては、常盤会とも連携しなが

ら、世代を超えた交流と総合学習の場となるよう位置付けていきます。

#### **(5)財政計画**

編入考査を年4回(3月・7月・10月・1月)実施し、2022年度夏まで帰国生徒受入れ校としての社会的使命を果たしていきませんが、生徒数減少により学納金収入・補助金収入も確実に減少していきます。費用対効果を考慮し、優先順位を明確にした予算執行に努めます。スクールバス交友会、PTA、生徒会等の繰越金については、それぞれの関係者と有効な活用方法を相談していきます。

#### **(6)組織運営と人材育成**

退職や他設置校への円滑な移籍が行われるよう学園内の連携・協力を図っていきます。年ごとに生徒数と教職員数が減少していく状況にあっても、教育条件が低下することがないように、適切な人事計画を実施します。また「働き方改革」を踏まえ、業務の見直しと並行して、学校サイズに合ったコンパクトで機能的な校務運営組織に移行していきます。